



中部大学春日丘高校
平成29年度現職教育
校内事業報告会&アクティブラーニング研修開催

「SGH(スーパーグローバルハイスクール)校内事業報告会」を開催

本校の中学・高校教員(123名)を対象に、平成28年度のSGH事業に関する事業報告会を実施しました。地域連携や海外交流の報告に加え、SGH事業の一環として研究開発している課題探究型授業科目「グローバル課題研究」、論理的思考力を育てる国語科目「ロジカルシンキング」、ネイティブスピーカーにより多面的な思考力を鍛える英語科目「クリティカルライティング」、発信力を高める英語科目「イングリッシュプレゼンテーション」の実践報告をしました。

◆ 日時

平成29年4月5日(水) 8:50~9:20

◆ 報告者

星野真琴(SGH開発部主任)、軍魁麻里(ロジカルシンキング主担当)、浅井裕貴(クリティカルライティング主担当)
柴田一平(イングリッシュプレゼンテーション主担当)



「アクティブラーニング研修」を開催

SGHの一環として、本校はアクティブラーニングの研究及び導入にも積極的に取り組んでいます。これまでも、6月と11月授業公開週間の際に実施される各教科の研究授業では、「アクティブラーニングの実践方法」を課題に据え、意見交換および、授業内への応用を行ってきました。そんな活動の機運が高まるなか、今回は現職教育の一環として、特定非営利活動法人NIED・国際理解教育センターより、伊沢玲子先生、長野智帆先生を講師としてお招きし、3時間にわたるアクティブラーニング研修を実施しました。

◆ 日時

平成29年4月5日(水) 9:30~12:30

◆ 講師

伊沢玲子先生(特定非営利活動法人 NED・国際理解教育センター)

長野智帆先生(特定非営利活動法人 NED・国際理解教育センター)

◆ 研修内容

「アクティブラーニングの視点からの授業づくり」というテーマのもと、「アクティブラーニングという用語の定義」「導入の背景とねらい」という基本的事項の確認から、「これまでの授業をアクティブラーニングの視点でとらえ直す」という段階を経て、「教科教育におけるアクティブラーニングの目的と実践という具体的方法の体験をしました。

<研修内容の概略>

アクティブラーニングの概念および歴史の理解

書いたり、読んだり、議論する学習形態、つまり「聴くこと以外」の学習形態である「アクティブラーニング」は、1980年代にアメリカで始まったが、その概念は日米両国にかなり以前から教育現場に存在していた。しかし、時代とともに、「知識」そのものから「知識を身につける力」、「問題発見能力」、「問題解決能力」が重視されるようになり、平成26年(2014年)に学習指導要領に反映されるにいたった。

<手法体験>

ラウンド・ロビン法

自分の意見を順番に持ち回りで発表してゆく手法。だれにも公平に発言の機会が与えられる。

ウェビング(派生図法)

1つのテーマについて、自由にイメージや連想を広げ、模造紙などに派生図を描いてゆく手法。現状把握、原因探究や問題把握のヒントをつかむのに有効

ジグソー法

ホームグループで与えられたそれぞれ独立した課題を、同じ課題を有するメンバーで構成されたグループ(課題検討グループ)で検討し、結論を出す。その結論をそれぞれのホームグループで発表する。情報を正しく伝達する能力の養成に有効

◆ 研修後の感想

「アクティブラーニング」という言葉は、様々な機会に耳にするようになりましたが、実際の授業でどのように応用すべきかは、まさに「暗中模索」の現状です。そんな中、アクティブラーニングの基本的概念から、歴史、ラウンド・ロビン法、ウェビング法等々、これまで知らなかった手法を実際の手法を学べたことは、本当に良い機会であったと思います。急速に変化を続ける教育現場において、生徒の学力をより伸ばすために、我々教員も学び続ける必要性を実感した3時間でした。

